

日本文学作品の「神様」って何だろう？～読書レポート～

[わらぐつの中の神様（光村図書）]

第5学年 3名 指導者 原田圭輔

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、主体性・積極性、他者理解・他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領 C 読むこと「イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を受けて設定したものである。

本教材は、おばあちゃんが孫のマサエに若いころの話をする、現在－過去－現在の額縁構造で書かれた文学作品である。家族思いで心の優しいおみつは店先で見つけた美しい雪下駄を買いたいと願ってわらぐつを編むが、不恰好であったために買い手がつかない。しかし、ある日大工が手に取って買っていく。そこでのおみつと大工の会話から、「見かけ」と「本質」について読者に訴えかける作品となっている。また、登場人物の気持ちの変化や心の通い合い、人と人との真心、真の値打ちとはといった大切なことが盛り込まれ、優れた叙述を読み取るのにふさわしい学習材であり、読書の広がりやさらに波及していくことが期待できる。

児童の実態

◎児童アンケート（肯定的回答の割合）

物語の学習が好き。	100%
読書をするのが楽しい。	100%

◎標準学力調査（正答率）

登場人物の様子を読み取ることができる。	33%
登場人物の気持ちを読み取ることができる。	33%

本学級の児童は、学習に前向きに取り組んでおり、物語の学習は好きである。しかし、叙述を基に登場人物の様子や気持ちを読み取ることが難しい。根拠を明確にせず、自分の意見や考えを発表することが多く見られる。大まかな内容をつかむことは速いが、大事な言葉（表現）や場面の移り変わりを押さえずに読んでいる。また、読書についても、じっくりと読んでいるとは言えない状況がある。

叙述をもとに、物語の流れに沿って心情や相互関係を想像すること、大事なことを押さえて自分の読みをもつこと、様々な物語をじっくりと読み、自分の考えをもつことに課題があると言える。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「日本文学作品の『神様』って何だろう？」と設定し、「神様」がキーワードとなる文学作品を読み、対話を通して、それぞれの作品を関連付けて日本文学作品における「神様」とは何なのかを考えていく。そのために、「わらぐつの中の神様」を共通教材として、物語の「ナゾ」を解いていくことで、作者が作品に込めた思いやキーワードとなる「神様」について解釈していく。そこで学んだ解釈の仕方を使って、様々な文学作品を読み、対話を通して考えを深める。最後に読書レポートにまとめる。

第一次では、本を読んで考えたことをまとめる方法として、「読書レポート」というものがあることを教える。レポートのテーマとして「日本文学作品の『神様』って何だろう？」という学習課題を設定する。「わらぐつの中の神様」を全員で読んでいくことで学習方法について学ぶことや並行読書をする中で様々な作品の解釈を進めていくことを押さえる。

第二次では、「わらぐつの中の神様」について、物語の「ナゾ」を中心に、解釈を進めていく。わらぐつの中の「神様」とは何なのかを全員で考える。

第三次では、これまでの学習を活かして、文学作品における「神様」とは何なのか考えを深め、レポートをまとめる。

単元の目標

- 比喩や反復等の表現の工夫に気付くことができる。【知識及び技能(1)ク表現の技法】
- 登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えることができる。【読むことイ】
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。【読むことエ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。【読むことオ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、対話したり、レポートを書いたりすることができる。【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

「神様」がキーワードとなる作品を関連付けて読み、共通点や相違点を見つけたり、解釈を出し合って考えを深めたりすることを通して、読書レポートにまとめる。

単元でつける「ことばの力」(学習用語)

- | | | |
|-----------------|------|--------|
| 【読む】 | 【書く】 | |
| ○中心人物 | ○対人物 | ○小見出し |
| ○題名 | | ○表現の工夫 |
| ○相互関係(人物関係図) | | ○あらすじ |
| ○場面 | ○人物像 | ○感想 |
| ○額縁構造(現在・過去・現在) | | ○まとめ |

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力、人間性 (☆主体性・積極性) (◎他者理解・他者との協働)	
物語を読む時に、比喻や反復等の表現の工夫に気付いている。	<p>★登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 (構造化する)</p> <p>★人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (多面的に見る)</p> <p>★文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (要約する)</p>	<p>☆◎目的や相手意識をもって、文章を読んだり、対話したり、レポートを書いたりしている。</p>	<p>【論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使って、構造化している。 ・言葉にこだわり、物事について多面的に見ている。 ・ノートやメモをもとに要約している。 <p>【主体性・積極性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見，追究，解決を繰り返し，学びを連続，発展させている。 <p>【他者理解・他者との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 物語10の読みの視点を活用した一人学び

<p>①時…①現在 ②過去（おばあちゃんの昔話） ③現在</p> <p>②場所…①マサエの家（こたつ） ②市 ③マサエの家（こたつ）</p> <p>③登場人物…マサエ，おばあちゃん，母 おみつさん，大工さん</p> <p>④中心人物…マサエ</p> <p>⑤対人物 …おばあちゃん</p> <p>⑥出来事…おばあちゃんが自分の若いころの昔話をした。</p> <p>⑦結末…神様を迷信だと思っていたマサエが，おばあちゃんの心を受け止め，信じるようになった。</p> <p>⑧物語を一文で表す…わらぐつをみったぐないと言っていたマサエがおばあちゃんの話聞いたことよって，神様がいるとても大切なものと思うようになった話。</p> <p>⑨語句の意味…「迷信」「真正銘」「気ぜわしそう」「言葉をにごす」「このうえなし」「あけすけ」など</p> <p>⑩表現の工夫…「白いほおが夕焼けのように赤くなりました」「マサエは，パチンと手をたたいて，目をかがやかせました」「げんかんを飛び出していました」（心情）など</p>

(2) 物語の「ナゾ」の設定，解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- どうしてお母さんもおばあちゃんの話をお聞きしようとしたのだろう。また，おじいちゃんの話が気になったのはどうしてだろう。
- 大工さんはどうして何度もわらぐつを買ったのだろうか。
- マサエは どうして赤いつま皮の雪げたをかかえたまま，げんかんへ飛び出していったのか。
- おばあちゃんは どうして自分の話なのに，「おみつさん」と「大工さん」を登場させた話にしたのか。
- わらぐつの中の神様っていったいなんだろうか。

(3) 「神様」について書かれた日本文学作品を読む

いろいろな神様が登場する物語を課題図書として設定し，読ませる。様々な文章に触れさせ，情報を得る力をつける。

【他者との対話】

(1) 考えの交流の場の設定

課題図書を読んで考えたことを交流する場を設定する。また，6年生にも聞いてもらうことで，新しい考えにも気づかせる。

(2) 学校図書館司書との連携

学校図書館司書と連携し、「神様」が関係している様々な本を用意する。また、読書レポートを見ていただき、新たな考えも教えていただく。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると考える。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

並行読書で読んだ作品についてメモする読書記録とらせたり、誰がどの作品を読み終ったのかを把握できる一覧表にチェックさせたりすることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

完成した読書レポートを互いに読み合う。6年生にも見せ、気づきをもらう。

単元計画 (全9時間)

次時	学習活動	評価			
		知技	読む	学び	評価規準 (評価方法)
一	1 課題の設定 学習課題「日本文学作品の『神様』は何だろう？」を設定し、読書レポートのモデルを見て、学習計画を立てる。			○	学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。(ノート, 発言)
	2 情報の収集 整理・分析 物語「わらぐつの中の神様」を読み、一人学びをする。		○	◎	物語を進んで読み、物語の「ナヅ」を見つけたり、大まかな内容をつかんだりしている。(ノート)
二	3 情報の収集 整理・分析 はじめ(現在)のマサエとおばあちゃんの心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナヅ」を解決する。	○	◎		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナヅ」を解いている。(ノート, 発言)
	4 情報の収集 中(過去)のおみつと大工の心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナヅ」を解決する。	○	◎		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナヅ」を解いている。(ノート, 発言)
	5 情報の収集 整理・分析 おわり(現在)のマサエとおばあちゃんの心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナヅ」を解決する。	○	◎		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナヅ」を解いている。(ノート, 発言)
	6 情報の収集 整理・分析 学習を振り返って、「わらぐつの中の神様」の「神様」は何なのかを考える。 (本時)		○		物語の全体像を捉え、表現の工夫について考えている。(ノート, 発言) 文章を読んで考えたことについて自分の考えをまとめている。(ノート)
三	7 整理・分析 課題図書に関連付けて、日本文学における「神様」について考える。			○	課題図書を読んで考えたことについて友達と話し合っている。(ノート, 発言)
	8 まとめ・創造・表現 読書レポートを書く。		◎	○	考えたことについてまとめている。(原稿用紙) 目的意識, 相手意識をもって文章を書いている。(原稿用紙, 様子)
	9 実行・振り返り 読書レポートを読み合い, 感想を交流する。単元の振り返りをする。			○	目的意識, 相手意識をもって読書レポートを読んでいる。(様子)

「神様」が出てくる日本文学の並行読書

立松和平が考える「命」って何だろう？～読書レポート～

[海の命（光村図書）]

第6学年 5名 指導者 原田圭輔

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、主体性・積極性、他者理解・他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領C読むこと「イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」「エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「オ文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を受けて設定したものである。

本教材は、海と関わって生きてきた漁師の父や与吉じいさに影響を受けながら、自らも漁師としての生き方を深めていき、「村一番の漁師」として成長していく主人公太一の生涯を描いた作品である。破るべき相手として追い求めてきた瀬の主クエとの出会いにおいて、あえてその夢を放棄する漁師としての太一の変容が場面の劇的な展開と対応した内面のドラマとして見事に描き出されている。

太一にとっての瀬の主クエのように「海の命」に象徴された自然というものの本質やそれと関わって生きる人間のありようについて読み取ることで、自分の問題として考えていくことができる学習材である。

児童の実態

◎児童アンケート（肯定的回答の割合）

物語の学習が好き。	100%
読書をするのが楽しい。	100%

◎標準学力調査（正答率）

登場人物の様子を読み取ることができる。	80%
登場人物の心情を読み取ることができる。	100%

本学級の児童は、物語の学習や読書が好きである。物語を読む時には、集中して楽しみながら読んでいく姿が多い。しかし、叙述を基に登場人物の様子や心情を読み取ることが難しい。根拠を明確にせず、自分の意見や考えを発表することが多く見られる。また、自分たちの考えを吟味検討、深めるまでの話し合いを進めるまでには至っていない。大まかな内容をつかむことは速いが、大事な言葉（表現）や場面の移り変わりを押さえずに読んでいる。

叙述をもとに、叙述をもとに心情や相互関係を想像すること、大事な言葉を押さえて読みを深めることに課題があると言える。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「立松和平が考える『命』って何だろう？」と設定し、立松和平の「命シリーズ」を読み、対話を通して、それぞれの作品を関連付けて立松和平が考える「命」とは何なのかを考えていく。そのために、「海の命」を共通教材として、物語の「ナヅ」を解いていくことで、作者が作品に込めた思いやキーワードとなる「命」について解釈していく。そこで学んだ解釈の仕方を使って、「命シリーズ」を読み、対話を通して考えを深める。最後に読書レポートにまとめる。

第一次では、本を読んでわかったことや考えたことをまとめる方法として、「読書レポート」というものがあることを教える。レポートのテーマとして「立松和平が考える『命』って何だろう？」という学習課題を設定する。「海の命」を全員で読んでいくことで学習方法について学ぶことや並行読書をする中で様々な作品の解釈を進めていくことを押さえる。

第二次では、「海の命」について、物語の「ナヅ」を中心に、解釈を進めていく。立松和平が考える「海の命」とは何なのかを全員で考える。

第三次では、これまでの学習を活かして、立松和平が考える「命」とは何なのか考えを深め、レポートにまとめる。

単元の目標

- 比喩や反復等の表現の工夫に気付くことができる。 【知識及び技能(1)ク表現の技法】
- 登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えることができる。 【読むことイ】
- 人物像や物語等の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 【読むことエ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【読むことオ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、対話したり、レポートを書いたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

立松和平の「命シリーズ」を関連付けて読み、共通点や相違点を見つけたり、解釈を出し合って考えを深めたりするを通して、読書レポートにまとめる。

単元でつける「ことばの力」(学習用語)

【読む】

- 中心人物 ○対人物
- 題名
- 相互関係（人物関係図）
- 場面 ○人物像
- 全体像

【書く】

- 小見出し
- 表現の工夫
- あらすじ
- 感想
- まとめ

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力、人間性 (☆主体性・積極性) (◎他者理解・他者との協働)	
物語を読む時に、比喩や反復等の表現の工夫に気付いている。	<p>★登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 (構造化する)</p> <p>★人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (多面的に見る)</p> <p>★文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (要約する)</p>	<p>☆◎目的や相手意識をもって、文章を読んだり、対話したり、レポートを書いたりしている。</p>	<p>【論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使って、構造化している。 ・言葉にこだわり、物事について多面的に見ている。 ・ノートやメモをもとに要約している。 <p>【主体性・積極性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見，追究，解決を繰り返し，学びを連続，発展させている。 <p>【他者理解・他者との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 「物語10の読みの視点」を活用した一人学び

<p>①時…①子どものころ ②中学を卒業する年の夏 ③弟子になって何年もたったある朝 ④ある日 ⑤追い求めているうちに ⑥やがて</p> <p>②場所…太一が住んでいる村の海</p> <p>③登場人物…太一 与吉じいさ 父 母</p> <p>④中心人物…太一</p> <p>⑤対人物…与吉じいさ</p> <p>⑥出来事…・与吉じいさの弟子になった ・父を殺したであろうクエとの出会い</p> <p>⑦結末…太一は村一番の漁師であり続けた。</p> <p>⑧物語を一文で表す…父のかたき討ちをしたがっていた太一が与吉じいさの弟子になり成長していくことによって、クエと対面しても瀬の主を殺さないで済んだことで、村一番の漁師であり続けた話。</p> <p>⑨語句の意味…「屈強」「不意に」など</p> <p>⑩表現の工夫…「同じところに同じ青い目がある。ひとみは…」(色彩表現，比喩) など</p>
--

(2) 物語の「ナゾ」の設定，解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- 太一はどのようにしてなかなか釣り糸をにぎらせてもらえなかったのか。
- 与吉じいさが亡くなった時，太一はどのようにして自然な気持ちで顔の前に両手を合わせることができたのか。
- 20キロぐらいのクエに対してどのようにして興味をもてなかったのか。
- 太一はどのようにしてクエを打たなかったのか。
- 巨大なクエを岩の穴で見かけたのにもりを打たなかったことを太一は生涯だれにも話さなかったのはどうしてか。なぜ「もちろん」なのか。

(3) 立松和平の「命シリーズ」を読む

立松和平の「命シリーズ」を課題図書として設定し，読ませる。立松和平の作品に触れさせ，情報を得る力をつける。

【他者との対話】

(1) 考えの交流の場の設定

課題図書を読んで考えたことを交流する場を設定する。いろいろな考えに触れ，考えを深めさせる。

(2) 学校図書館司書との連携

学校図書館司書と連携し、立松和平に関する本を用意する。また、読書レポートを見ていただき、新たな考えも教えていただく。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると考える。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

並行読書で読んだ作品についてメモする読書記録とらせたり、誰がどの作品を読み終ったのかを把握できる一覧表にチェックさせたりすることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

完成した読書レポートを互いに読み合う。5年生にも見せ、気づきをもらう。

単元計画 (全9時間)

次	時	学習活動	評価			
			知技	読む	学び	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 学習課題「立松和平が考える『命』は何だろう？」を設定し、読書レポートのモデルを見て、学習計画を立てる。			○	学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。 (ノート, 発言)
	2	情報の収集 整理・分析 物語「海の命」を読み、一人学びをする。		○	◎	物語を進んで読み、物語の「ナヅ」を見つけたり、大まかな内容をつかんだりしている。 (ノート)
二	3	情報の収集 整理・分析 1・2場面の太一と与吉じいさ、母の心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナヅ」を解決する。	○	◎		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナヅ」を解いている。 (ノート, 発言)
	4	情報の収集 整理・分析 3・4場面の太一と与吉じいさ、母の心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナヅ」を解決する。	○	◎		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナヅ」を解いている。 (ノート, 発言)
	5	情報の収集 整理・分析 5・6場面の太一とクエ、母の関係や場面の描写をとらえ、物語の「ナヅ」を解決する。	○	◎		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナヅ」を解いている。 (ノート, 発言)
	6	情報の収集 整理・分析 学習を振り返って、「海の命」とは何なのかを考える。(本時)		○		物語の全体像を捉え、表現の工夫について考えている。(ノート, 発言) 文章を読んで考えたことについて自分の考えをまとめている。 (ノート)
三	7	整理・分析 課題図書に関連付けて、立松和平が考える「命」について考える。			○	課題図書を読んで考えたことについて友達と話し合っている。 (ノート, 発言)
	8	まとめ・創造・表現 読書レポートを書く。		◎	○	考えたことについてまとめている。 (原稿用紙) 目的意識, 相手意識をもって、文章を書いている。(原稿用紙, 様子)
	9	実行・振り返り 読書レポートを読み合い、感想を交流する。単元の振り返りをする。			○	目的意識, 相手意識をもって読書レポートを読んでいる。(様子)

立松和平の「命シリーズ」の並行読書

本時の学習

【5学年 本時の目標】

- 作品の構造や題名に着目して、作者が物語に込めた思いについて読み取ることを通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【準備物】

挿絵、短冊

○評価規準【教科】 ★望ましい姿【資質・能力】 (評価方法)	指導上の留意点	学習活動
	・学習計画から本時の学習課題を確認させる。	1 本時の学習課題を確認し、課題解決の見通しをもつ。
杉みき子は「わらぐつの中の神様」を通して、読者にどんなことを伝えたいのだろう。		
★主体性、積極性 課題追究、解決を繰り返して学習を進めている。 (行動)	・2つの物語の「ナゾ」について考えることで、本時の学習課題を解決するという見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">おばあちゃんが初めに自分の昔の話だと言わなかったのは、なぜだろう。</div>	2 物語の「ナゾ」①を確認し、解決をする。
★論理的思考力 言葉にこだわり、作品の構造、表現の工夫について多面的に考えている。 (行動、発言)	・これまでの学習でできた人物関係図や物語の「ナゾ」の答えを参考にさせる。 ・考えるヒントとして「もし、おばあちゃんが『おばあちゃんにはこんな話があったね…』と言っていたらどうなっていたらどうか?」と問う。 ・現在－過去－現在の構造のよさを捉えさせる。	・マサエが初め、おばあちゃんの言うことを信じていなかったから。 ・わらぐつを「みったぐない」と言っていたから。 ・物語ならわかりやすいから。 ・「神様」は実際にはいないので、お話にした方がよいと思ったから。 ・おばあちゃんとおじいちゃんとの大切な思い出だから。 ⇒マサエによく聞かせるため。 ⇒おばあちゃんにとって大切な話だから。
★論理的思考力 言葉にこだわり、物事について多面的に見ている。 (行動、発言)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">杉みき子が考える「わらぐつの中の神様」とはどんな神様だろうか?</div> ・椅子を円形にし、順番に意見を述べさせる。 ・「雪げたにいる神様も同じなのだろうか。」と問い、考えを深めさせる。	3 物語の「ナゾ」②を確認し、解決する。
○読むこと（論理的思考力） 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (ノート)	・まとめの書き出しを「作者はこの物語を通して、読者に…」と指定し、課題とまとめの整合性をもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(例) 作者はこの物語を通して、読者に「優しさ」について伝えたいのだと思います。なぜなら、… (例) 作者はこの物語を通して、読者に「あたたかな心の大切さ」について伝えたいのだと思います。なぜなら、…</div>	
★他者理解・他者との協働 相手のよさ、意見や考え方の違いを認め、受け止めている。 (発言、ノート)	・学習を通して考えたことや分かったこと、学習での自分や友達のよかったところについてふりかえりをさせ、学びの自覚化をさせる。	5 学習の振り返りをし、次時への見通しをもつ。

【6学年 本時の目標】

- 最後の一文と題名に着目して、作者が物語に込めた思いについて読み取ることを通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【準備物】

挿絵、短冊

○評価規準【教科】 ★望ましい姿【資質・能力】 (評価方法)	指導上の留意点	学習活動
	・学習計画から本時の学習課題を確認させる。	1 本時の学習課題を確認し、課題解決の見通しをもつ。
立松和子は「海の命」を通して、読者にどんなことを伝えたいのだろう。		
★主体性、積極性 課題追究、解決を繰り返して学習を進めている。 (行動)	・2つの物語の「ナゾ」について考えることで、本時の学習課題を解決するという見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">巨大なクエを岩の穴で見かけたのにもりを打たなかったことを、太一は生涯だれにも話さなかったのはなぜだろう。</div>	2 物語の「ナゾ」①を確認し、解決をする。
★論理的思考力 言葉にこだわり、太一の行動について多面的に見ている。 (ノート、行動)	・これまでの学習でできた関係図や物語の「ナゾ」の答えを参考にさせる。 ・考えるヒントとして「もし、太一が話していたらどうなっていたらどうか?」と問う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「もちろん」話さなかったとあるが、なぜ「もちろん」なのか?</div> ・上記の繰り返し発問をし、考えを深めさせる。	・むやみやたらに話すべき話ではないから。 ・父のようにいつもと変わらないこととして扱ったから。(言ってしまうと、大ごとになってしまう) ・「海の命」であるから、人に言うべきことでない。(大切なもの) ・父と自分との大切な出来事だから。 ⇒自分にとって大切な出来事 ⇒海(村)にとって大げさな事にすべきでない出来事(いつもの海を守る)
★論理的思考力 言葉にこだわり、物事について多面的に見ている。 (行動、発言)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">立松和子が考える「海の命」とはどんな命だろうか?</div> ・椅子を円形にし、順番に意見を述べさせる。 ・「大魚はこの海の命だと思えた」や「千びきに一びきしかとらないのだから、海の命は全く変わらない」に着目させ、この場合の「海の命」は何なのか考えさせる。	3 物語の「ナゾ」②を確認し、解決する。
○読むこと（論理的思考力） 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (ノート)	・まとめの書き出しを「作者はこの物語を通して、読者に…」と指定し、課題とまとめの整合性をもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(例) 作者はこの物語を通して、読者に「一つの命が他の命とつながっていること」について伝えたいのだと思います。なぜなら、… (例) 作者はこの物語を通して、読者に「命はあたりまえにそこにあるけど、失いやすいものであること」について伝えたいのだと思います。なぜなら、…</div>	4 本時の学習課題に対してのまとめをする。
★他者理解・他者との協働 相手のよさ、意見や考え方の違いを認め、受け止めている。 (発言、ノート)	・学習を通して考えたことや分かったこと、学習での自分や友達のよかったところについてふりかえりをさせ、学びの自覚化をさせる。	5 学習の振り返りをし、次時への見通しをもつ。